十月秋の女流能

十月二十三日（日）
十三時始

正午開場
於　宝生能楽堂

13:00

清経

ツレ　葛野　りさ
シテ　武田　伊左

ワキ　高井　松男

後見　宝生　和英
　　金森　良充

地謡　坂口　侑
　　内田　朝陽
　　広島　栄里子
　　黒　　実都
　　久貫　弘親子
　　前田　芳能子
　　内田　松男
　　若

大鼓　柿原　光博
小鼓　大村　華由

笛　成田　寛人

14:00

察化

山本　則秀

休憩十五分

山本凛太郎
山本　則孝

14:45

龍田

シテ　柏山　聡子

ワキ　則久　英志

ワキツレ　野口　琢弘
〃　小林　克都

間　山本泰太郎

後見　東川　光夫
　　佐野　玄宜

地謡　上野　能寛
　　木谷　哲也
　　今井　基晴
　　金森　隆
　　亀井　雄二
　　山内　崇生
　　水上　優
　　藪　克徳

大鼓　高野　彰
小鼓　大山　容子

太鼓　姥浦　理紗
笛　小野寺竜一

16:30

葵上

ツレ　関　直美
シテ　土屋　周子

ワキ　舘田　善博

ワキツレ　工藤　和哉
間　山本　則重

後見　朝倉　俊樹
　　高橋　憲正
　　朝倉　大輔

地謡　内田　朝陽
　　広島　栄里子
　　衣斐　愛
　　石黒　実都
　　久貫　弘能
　　影山　道子
　　後藤　裕子
　　松田　若子

大鼓　原岡　一之
小鼓　岡本はる奈

太鼓　大川　典良
笛　栗林　祐輔

終了予定十七時三十分頃

チケット料金（税込）

全席自由席
一般　5,500円
学生　2,750円
（当日要学生証提示）

ご購入は、各能楽師
または
オンラインチケット
・宝生会事務局まで

ARTS for the future! ▶2

演目の解説

能「清経」（きよつね）
平清経の家来淡津三郎は、主人清経の形見を持ち、都に上り清経の妻に、三郎の上京を訝しがり、三郎は清経が自害したことを語り、形見の品々を渡す。妻は夫の後を追って入水したことを知り嘆き悲しむ。三郎が清経の最期の様子を語ると、妻は形見の品々を前に夫を偲び、悲しみに暮れる。三郎が船に乗って去ると、妻は夫の後を追って入水する。

能「龍田」（たつた）
諸国を廻る僧が龍田川を渡ろうとすると、女が現れ、龍田川の紅葉を錦に見立てて美しいと言う。僧が、古歌を引いて、龍田姫の社に手向けたのかと問うと、女は、龍田姫の社は神楽岡にあり、龍田川は神楽岡の麓を流れていると教える。僧が、龍田姫の社に参詣すると、女は龍田姫の神体となって現れ、神楽を舞う。

能「葵上」（あおいのうえ）
光源氏の正妻葵上は得体の知れない病で臥せっていた。「臣下が憑いて巫女にいまし考えた朱雀院のなせる祟りである」と、弓の音に惹かれて六条御息所の生霊が現れ、葵上を取り殺そうとする。御息所は、葵上の名を明かすことを拒むが、巫女の祈りに負けて名を明かす。御息所は、葵上の臣下が高貴な女性を呪い殺そうとしたことを恥じ、嫉妬の心を抑えようとするが、抑えきれず、葵上を打ち伏せ、横川の小聖が呼ばれて祈り伏せられ、鬼の姿となって祈祷が始まると、御息所は、葵上に取り憑いた鬼を調伏しようとする。鬼は、祈祷の声に責められ、ついに成仏して去って行きます。